

## 分科会 9 感染対策に求められる薬剤師の役割

W-09-05

感染症パンデミックでの医薬品供給と薬剤師の役割  
—新型インフルエンザの教訓から—こじま さとし  
小島 聡安藤株式会社 DI 室長  
(日本医薬品卸勤務薬剤師会群馬支部)

2009年4月メキシコで新型インフルエンザ第一号患者が発生、日本においても懸命の水際作戦も及ばず同5月神戸で国内初の患者が報告され同6月WHOがフェーズ6いわゆるパンデミック宣言をし、その後の新型インフルエンザの世界的大流行は、まだ記憶に新しいことと思います。新型インフルエンザワクチンの接種が決定したのが9月末、その流通経路は国がメーカーより買い上げた新型インフルエンザワクチンを受託医療機関数を基に各都道府県の配分量を決定し前年の季節性インフルエンザワクチンの数量シェアにて各卸売販売業者へ売却するというものでした。また、ワクチン接種の優勢順位もその時に決まりました。群馬県では供給スケジュールとして、群馬県薬務課と群馬県医薬品卸協同組合が連携を取りながら概ね2週間を1クールとし金曜日に締め切った各受託医療機関からの希望本数が記入されたFAXを卸協同組合が取りまとめ、薬務課に渡す。薬務課職員は、それを土曜日で整理、本数の修正の後翌週の月曜日に卸協同組合事務局へメール送信。各卸が集まりそのリスト表を見ながら各医療機関への配送について協議するというものでした。

配送地区については、予め決まっている群馬県防災訓練における災害時緊急医薬品輸送のフローチャートで決めましたが担当卸割当作業だけでも毎回大変な時間と労力がかかりました。なぜならば地区毎に卸を決めると取引のない得意先には別の卸を選定せざるを得ません。また、新型インフルエンザワクチンは、各メーカーの前年の季節性インフルエンザワクチンの売上げシェアで配分となったため、今度は各卸の季節性ワクチンのメーカー構成がまちまちの故、入荷量に大きな偏りが生じたのでそれらを調整しなければなりません。ワクチンの規格も1ml、1ml×2、10ml、0.5mlシリンジ×5（妊婦用 保存剤無）と4規格あり病院等大量接種する場合は10mlで構わないけれども、開業医レベルでは大容量のワクチンは嫌がれる場合が多々ありました。また、保管管理にも充分注意しました。医療機関からの注文書にも問題があり医療機関名が未記入、FAXする際の表裏が逆であったり等の不具合もありました。最初の頃は大量の注文も2回接種が1回になったり抗インフルエンザ薬が充分効果が期待できることにより徐々に終息しつつ結果的に外国輸入のワクチンも要らなくなり現状各卸に未処理のまま在庫として残っているのも事実です。抗インフルエンザ薬（タミフル、リレンザ）、インフルエンザウイルス迅速診断キットについても当然、品薄状況が続き毎週末それらの在庫数を県薬務課へ報告していました。特にタミフルに関しては、医師会等より県薬務課及び保健予防課へ再三再四、県や国の備蓄タミフルの放出の要望がありましたが結果そうはなりません。そんな状況のなか、タミフルドライシロップ3%の入手が困難になった時の対応について問い合わせが多くきました。日本病院薬剤師会作製資料を参考に、タミフルカプセルを4Cap（75mg×4＝300mg）脱カプセルし乳糖を賦形剤とし全量を10g（30mg/1g）となるように調剤するとお答えしました。しかし、皮肉なことに今度は乳糖が品薄になるという事態が一時生じました。速乾性手指消毒剤、マスク等も品薄状況が続き速乾性手指消毒剤の代替品として消毒用エタノールにグリセリンを混合するという簡単な院内製剤の紹介をした様に記憶しています。例年、同時期に発生するノロウイルスが少なかったのは、手洗い、うがい等が啓蒙されかつ励行されたせいでしょうか。数年前から、県及び各地域において新型インフルエンザ対策会議が行われていましたが、今回の流行は大方予想されていた高病原性鳥インフルエンザ（H5N1型）ではなく感染力は強いけれど比較的弱毒性の新型インフルエンザ（H1N1型）だったことは少なからず良かったと思います。また不思議に思うのは、季節性のインフルエンザの発症が多くなかったということです。スペインかぜやアジアかぜの流行のときもそうだったようですが、旧インフルエンザウイルスが新インフルエンザウイルスに駆逐されるのでしょうか。今回の新型インフルエンザワクチンの医療機関への供給から得られた教訓としては、ワクチンの規格を一種類（出来れば一人用のみ）に統一してもらいたい。また、医療機関からのFAXに納入希望卸を2社程記載してもらい、ワクチンの搬入も国の抗インフルエンザ薬を放出する際に決めた幹事卸に一括で納入し県からのリスト表に則して各卸に配分するという形を取ってもらいたい。最後に非常に大切なことではありますが医薬品卸の配達者は、まるで戦場に行くようなものなのでぜひワクチン接種の最優先順位に入れてもらいたいと思います。